

カトリック八尾教会ニュース



しゅ こうたん しんねん
主のご降誕と新年の
よろこ もう あ
お慶びを申し上げます

2025年1月

Tháng một

【今月の予定】

ミサの時間



1日(水・祭) 神の母聖マリア<世界平和の日>	10:00	
5日(日・祭) 主の公現	7:00 10:00	
12日(日・祝) 主の洗礼	7:00 10:00	
17日(金) 教区新生の日 <1. 17>		
18日(土) 子ども会(初聖体勉強会)	14:00	
信仰講座	16:00	
18日(土)~25日(土) <キリスト教一致祈禱週間>		今回のテーマは、「あなたは このことを 信じますか」(ヨハネ 11・26)です。キリスト 教一致の為に祈ります。小冊子をご利用ください。
19日(日) 年間第2主日	7:00 10:00	「新成人(二十歳)の祝福」
ベトナム語のミサ	15:00	
26日(日) 年間第3主日(神のことばの主日)	7:00	
世界子ども助け合いの日(献金)	10:00	子どもと共に捧げるミサ
28日(日) 聖トマス・アクィナス司祭教会博士		前田万葉大司教霊名

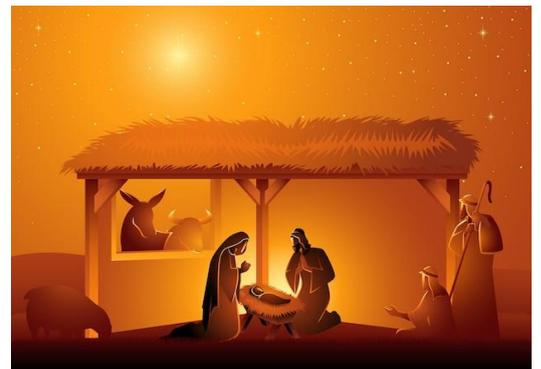
【平日のミサ】 木曜日 10:00 9日、16日、30日(2日、23日休みです)

■待降節黙想会に参加して 12月15日(日) 9時~ 指導司祭 下瀬智久

~今、イエス様を待ち望む意味について~

(レデンプトール会)

2000年前の中東情勢は現代同様、困難な時代であった。
旧約聖書によるとユダヤ人は長い間、国を立て直してくれ
る偉大な王が現れることを待ち望んでいた。だが、イエス
様は痛みや苦しむが分かる人間として地上にお生まれになっ
た。ユダヤ人の期待とは大きな“ずれ”があった。罪の贖いの
ため、そして私たちと共に歩むために来て下さったイエス様
を理解できたのは、名もなく、小さくされた人たちであった。



待降節は、イエス様がお生まれになった本当の意味を喜びたい。

(信徒 H.O.)

■ブロック子どものクリスマス会が行われました！！

12月21日(土) 13:00~16:00

今年^{ことし}は八尾教会^{やおきょうかい}の子ども^こ達^{たち}だけの参加^{さんか}となりましたが、子ども^こ21人と大人^{おとな}(リーダー^{ふく}含め)16人の合計^{ごうけい}37人の参加^{さんか}がありました。



絵本^{えほん}やゲームやおやつそして、かわいいくつ下^{したゆき}雪だるま^{ゆきだるま}を作り、幼子^{おさなご}イエス様^{さま}に奉納^{ほうのう}しました。子ども^こ達^{たち}に良いクリスマス^よが訪^{おとず}れますように・・・★

(子ども会)

■2025年聖年をあゆむ

聖年^{せいねん}は2024年^{ねん}12月^{がつ}24日^{にち}にバチカンで聖年^{せいねん}の扉^{とびら}が開^{ひら}かれて開始^{かいし}されます。聖年^{せいねん}のテーマは『希望^{きぼう}の巡礼者^{じゆんれいしや}』です。カトリック中央協議会^{ちゆうおうきょうぎかい}ホームページで聖年^{せいねん}について、掲載^{けいさい}されている内容を何度か^{なんど}に分け一部^わ抜粋^{いちぶぼつすい}してお伝え^{つた}えます。詳しくは、ホームページ^{くわ}をご覧ください。また、合わせて、教区報^{きょうくほう}にも掲載^{けいさい}されていますのでごらん^{らん}ください。司教^{しきょう}による聖年開年^{せいねんかいねん}ミサは、12月^{がつ}29日^{にち}(日)13時に司教座聖堂^{じしきょうざせいどう}(玉造)と共同司教座聖堂^{きゆうどうしきょうざせいどう}(桜町)の2か所で行^{さくらまち}われる予定です。かしよ おこな よてい

2025 聖年

希望の巡礼者

JUBILEE 2025 Peregrinantes in Spem

<聖年の祈り>

天^{てん}の父^{ちち}よ、
あなたは、わたしたちの兄弟^{きょうだい}、御子^{みこ}イエスにおいて信仰^{しんこう}を与え、
聖霊^{せいれい}によってわたしたちの心^{こころ}に愛^{あい}の炎^{ほのお}を燃え^も上がらせてくださいました。
この信仰^{しんこう}と愛^{あい}によって、
神^{かみ}の国^{くに}の訪^{おとず}れを待ち望^まむ、祝福^{しゅくふく}に満ちた希望^{きぼう}が、
わたしたちのうちに呼び覚^よまされますように。
あなたの恵^{めぐ}みによって、わたしたちが、

福音の種をたゆまず育てる者へと変えられますように。
この種によって、新しい天と新しい地への確かな期待をもって、
人類とすべてのものが豊かに成長していきますように。
そのとき、悪の力は打ち払われ、
あなたの栄光が永遠に光り輝きます。
聖年の恵みによって、
希望の巡礼者であるわたしたちのうちに、
天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、
あがないの主の喜びと平和が全世界に行き渡りますように。
永遠にほめたたえられる神であるあなたに、
栄光と賛美が世々とこしえにありますように。
アーメン。

Franciscus

(カトリック中央協議会H.Pより)

さけ 叫び

チェ ジョンシム
崔 周永神父

叙階されてほぼ1年間は説教を前もって準備していた。導入を書き、本文を考えていって、
やがて結論に導かれるのだ。結論に至ると言わず、導かれると表現したが、これがまさに奇跡
のように感じていた。説教を準備するプロセスは対話なのだ。無意識に潜んでいる、数多くの疑問
が説教というきっかけに、その大海原から上がって来る。白い紙の形だったワード画面が黒い
文字で埋まっては、意味あるものとして浮かび上がる。そして、はっとなる。自分が今まで知って
もいなかったことが書いてあるからだ。聖霊の導きだったんだ！と思わず声をあげてしまいそう
なくらいに。そういった経験を1年も続けて積んでいくと、見えてくるもの分かって来るものがあ
る。神様の現存と御恵みの素晴らしさの、手に取れるほどの実感だ。その信仰体験の深まりがロー
マ留学の時の、今、振り返ってみても凄かったなと思ってしまう苦しみを乗り越えられた力の
根源だった。

2017年3月末イタリアに着いてから、どんどん細くなっていく食で体重は減り、やがて栄養
失調までなっていた。唇の両端は常に裂けていて、手足はどんどん冷たくなるし、浅い眠りで
一時間置きに目が覚めてしまう日が続いていた。体温も正常より下がっていて、秋ごろから鼻水
が絶えなかった。その年の冬を過ごし、翌年の6月、休みに大阪に帰って来た関空、迎えに来てい
た友たちの司祭からの後の話は衝撃だった。この人、死にかけているとの印象だったと。当時
の写真を見たら、なんと！目が斜視のようになっていた。体力を失った状態で必死でもがいて
いたんだろう。学校と寮との間の、その単純往復で、机に向かうと新幹線に乗ったように勉強

が宿題が進んでいった。その内、2年目が経ち、3年目の終わりかけ、修士論文を書く時のことは忘れられない。論文のスキーマを決め、資料と本とを探して書いていく、イタリア語で！一行を進めていくのが、まるでどん底から這い上がるような感じだった。それはまた巨大な石を、ちっちゃいトンカチと金づちとでこつこつと叩くような感じでもあった。その論文を仕上げては提出した後、高熱を出してほぼ十日間動けなかった。血尿がその間続いた。また、続く一年の教会裁判官専門コースでたっぷり勉強が出来た。そして、2021年6月に私はアジアに帰って来れた。成績はマグナ・クム・ラウデ (Magna Cum Laude)。

一日は全人生の縮約図だと思う。今日出来なかったことは明日も出来ない。何故なら、喘ぎが渴望が欠けているため、やる必要を感じないのだ。25年もの前、修道会の修練長の神父様はこう言っていた。もっと叫んでみたらどうだ。うちの屋根は丈夫なんだから、神様にもっと切実に叫んで欲しいと。そして、私は叫んだ。叫び続けた。今も私は叫んでいる。ただ、絶望と恨みの叫びではなく、神様のみ言葉を伝えるための叫びなのだ。素晴らしい神様に一度会ってしまったら、それから、神様以外のものはもうどうでもいいことになる。過行くものに目もくれなくなる。我を忘れて生きていくことになる。そのような人を一人知っている。パウロ使徒だ。私たちは今も使徒の時代を生きている。使徒言行録の時代をだ。

十年もの歳を取ったような 2024年が暮れている。しかし、2025年も同じだ、叫び続けるのは。

